



千葉労働動報

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043(222)7207 番

92.11.2 No.3684

希望を踏みにじる

再々強制配転の強行弾劾!

怒りの全てを次期闘争へ
必ずで原職を奪還しよう

JR当局は十一月一日、売店廃止(五店舗)に伴う、強制配転者の切なる願いを否定し、「九二・三ダイ改」時の「強制配転者の原職復帰については組合以上に認識している」としてきた経緯を踏みにじり、ただの一人に対しても運転関係への復帰の道を閉ざし、再々配転を強行した。

営業関係への「塩づけ」「たらい回し」という許しがたい攻撃を、またも繰り返してきたのである。

しかしながら、原職奪還一〇・二三ストが切り拓いた、強制配転者自らが闘いに立ち上がり、「塩づけ」攻撃に屈せず原職を奪還していく力こそ、われわれの「JR体制」への

返答であり、最大の打撃となっているのだ。

それは強制配転の軌跡を見れば最もはっきりしている。

「人活センター」の設置、「無人駅管理」等への配転、さらに営業関係へのたび重なる強制配転は、一方では運転関係での勤労千葉

への組織破壊攻撃、役員・活動家の排除であり、もう一方の強制配転者の「塩づけ」は、予科生の差別・選別登用に最も顕著に表れている組合脱退攻撃となって表裏一体のものとなっている。

この強制配転の七年間にも及ぶ攻撃が、われわれを「干ぼし」にすべくかけられたものであり、「JR体制」による「労務政策」そ

のものを如実に示しているのだ。

しかしついにわれわれ一人一人が、あらゆる攻撃に屈せず、全ての闘いの先頭に「強制配転」攻撃粉碎の旗を掲げ、団結力をより強固にしてきたからこそ今日があり、「JR体制」を追いつめていくのだ。

この間、攻撃を武器に転嫁させ、営業における支部結成(総武・京葉)、営業分科会の結成と逆に組織力を拡大してきたからこそ、勝利への展望を築きつつあるのだ。

今次一〇・二三ストの成果を、次期ダイ改時に結集し、必ずや原職を奪還しよう!

11・3

団結運動会

家族

みんなまで

参加しよう!

千葉公園
グラウンド

10時

